

## 近藤駿介：（原子力委員会委員長）

「原子力、特に高速増殖炉の開発は、将来性を信じつつ、これを人類のために建設運転し使えるものとして示していくことが、我々の使命であると考えている」

（1991年、もんじゅ訴訟動燃側証人）

■■無駄なお金を費やしても、全く動かすめども立たない「もんじゅ」について、今もそう言い張るのだろうか。その金は原発震災の被災者に回しましょう。

## 石川迪夫：（日本原子力技術協会最高顧問）

「不正確、無責任な情報で、社会が混乱することがもっとも心配である」

「エネルギー安定確保、温暖化対策の観点から我が国にとって原子力発電は不可欠であり、今回の教訓を十分反映することを前提に、原子力発電を進めるべきである」

（「アエラ臨時増刊・原発と日本人」5/15日号より）

■■福島原発事故の「教訓」をどう考えているのか。〈情報〉で社会が混乱しているのではなく、原発震災・放射能の〈現実〉により、社会が混乱させられているのだ。